

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		越野 泰成	所 属		法文学部 総合社会システム学科	職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.25	1. WebClassなどを使用して例年通り、予習のためのレジュメ配布や復習のためのレポートの提出などを実施して、さらなる単位の実質化を行う。 2. 昨年度の授業アンケートの指摘事項をもとに、授業の改善を心がける。 3. 経済学演習を通し、ゼミ生の履修指導、就職指導を行う。			0.25	1. WebClassなどを使用して例年通り、予習のためのレジュメ配布や復習のためのレポートの提出などを実施して、さらなる単位の実質化を行った。 2. 昨年度の授業アンケートの指摘事項をもとに、レジュメの一部修正を行った。 3. 経済学演習を通し、ゼミ生の履修指導、就職指導を行った。		
研究	0.15	1. 現在進行中の論文の完成させ、論文の投稿・採用を目指す。 2. 科研費応募をはじめ、外部資金獲得に向けた取組を行う。 3. 学内の戦略的研究推進経費による研究に参加し、研究遂行に協力する。			0.15	1. 現在進行中の論文は、一部完成できなかった。 2. 科研費応募をはじめ、外部資金獲得に向けた取組は行えなかった。 3. 学内の戦略的研究推進経費による研究に参加し、研究遂行に協力した。		
社会 貢献	0.10	1. 経済法研究会の会員として研究会に参加し、意見の交換等を通し、地域に貢献する。 2. 政策金融評価業務検討委員会委員として、会議に参加し、意見の交換等を通し、地域に貢献する。			0.10	1. 経済法研究会の会員として研究会に参加し、意見の交換等を通し、地域に貢献した。 2. 政策金融評価業務検討委員会委員として、会議に参加し、意見の交換等を通し、地域に貢献した。		
管理 運営	0.50	1. 大学評価センター長として、評価担当副学長を補佐し、法人評価及び認証評価の評価業務を遂行する。 2. 大学評価センター長として、年度計画実行を推進する。 3. IR推進室の一員として、全学的なIR活動を遂行する。			0.50	1. 大学評価センター長として、評価担当副学長を補佐し、第2期法人評価に対応するとともに、認証評価の対応を開始した。 2. 大学評価センター長として、年度計画実行を実施した。 3. IR推進室の一員として、全学的なIR活動を遂行した。		
	0.00				0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		我部 政明	所 属	法文学部 総合社会システム学科	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.55	国際政治学の毎年開講を目指す。クラスでは、事前に読むべき資料を配布をおこない、事前学習及び事後学習に役立てる。ゼミを開講し、3年次の専門教育を充実させる。共通教育において担当科目の充実を図るため、事前学習及び事後学習に役立つ文献資料を、Web-Classを利用して配布する。受講生が少ないときは、紙媒体においても、配布する。大学院博士後期課程の指導学生に対し、査読誌に論文を投稿するように指導する。		0.55	担当したクラス全てにおいて、事前学習及び事後学習の役立つ文献資料を、毎回、配布を行った。その結果、受講生の授業内容の理解が深まり、学習目標が一定程度達成できた。ゼミにおいては、論文作成において個別指導を実施し、表現力を向上させ、論理性を身につけさせることに一定の成功を収めた。大学院博士後期課程の指導学生(1年次)は、査読誌に論文投稿が採択され、3年次に行う博士論文審査への資格の満たすことになった。	
研究	0.25	科研費による「沖縄返還の研究」の最終年度にあたり、まとめを行い、次の研究企画につなげる作業を行う。研究論文を準備し、刊行する。また、国際沖縄研究書の拠点化事業「島嶼研究」プロジェクトに参加し、研究発表を行い、成果を刊行する。		0.25	「沖縄返還の研究」について成果報告書を刊行(3月末)できる段階に達した。国際沖縄研究所の『国際沖縄論集』(査読誌)に投稿し、掲載された(発行は3月末日)。「島嶼研究」プロジェクトでの成果の一つを論文として、『環境と公害』(査読誌、2017年冬季号)に掲載された。	
社会 貢献	0.05	外務省の沖縄関係文書公開に対応した文書解説に協力する。国際沖縄研究所にての「島嶼研究」プロジェクトに参加し、成果を一般市民へ公開する。また、公開授業として講義を社会人対象に提供を行う。		0.05	206年4月16日にシンポジウム「2017年1月12日の各紙(共同通信配信記事、朝日新聞、琉球新報、沖縄タイムス)にて、公開された外交記録についての評価を行った。また、公開授業に指定した担当講義に20名を超える社会人が受講生として参加した。	
管理 運営	0.15	大学院人文社会科学部前期課程の総合社会システム先行の主任及び政策科学研究教育領域の主任として、管理運営に寄与する。		0.15	二つの主任を務め、論文指導教員を新たに追加し、入試及び修了の学事を円滑に進めた。	
	0.00			0.00		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前	岩橋 培樹		所 属	法文学部 総合社会システム学科		職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.50	担当講義は以下の通り。経済数学(夜間)、労働経済学(昼間・夜間)、経済学演習Ⅰ・Ⅱ、マクロ経済学特論(大学院)、囲碁の世界(共通教育)。体系的で分かりやすい講義に努め、学生が知識を習得するのみならず、学ぶ意欲を高められるような内容に努める。		0.50	初回講義に、毎回の講義のテーマならびにキーワードを記した予定表を配布し、そのカリキュラムに従う形で講義を進めることができた。受講人数、出席率ともに高いもので、一定水準以上の講義を達成できたものと思う。 自己評価:A		
研究	0.50	「都市間連携の経済分析」をテーマとする研究に取り組む。 成果は論文としてまとめ、11月に「応用地域学会」にて発表することを目標とする。		0.50	研究成果を論文にまとめ(研究題目:地域産業政策の成果に関するパネルデータ分析)、応用地域学会で発表した。内容にはまだ修正すべきところがあり、今後、手直しをして専門誌への投稿を目指す。 自己評価:B		
社会貢献	0.00			0.00			
管理運営	0.00			0.00			
	0.00			0.00			
計	1.00			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)							
名 前		杉田 勝弘		所 属	法文学部 総合社会システム学科	職 名	准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生支援	0.30	わかりやすく、そして出来るだけ高度な内容の授業を目指す。ゼミにおいては勉強だけでなく進路などもできるだけ支援する。		0.30	出来る限り学生のやる気を引きだし懇切丁寧に教育した。		
研究	0.50	査読付きジャーナルに投稿できるようなレベルの研究をする。		0.50	査読付き国際英文誌に二本の論文が掲載された。		
社会貢献	0.00			0.00			
管理運営	0.10	いくつかの委員会で貢献できるようにする。		0.10	委員会に大体毎回出席した。		
進路指導	0.10	就職、そして院志望の学生に適切な指導をする。		0.10	ゼミの学生の各々の進路に合わせて出来る限りの指導をした。		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		星野 高德	所 属	法文学部 総合社会システム学科	職 名	准教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果	
教育・ 学生 支援	0.50	演習科目では、卒業論文の指導方針を確立し、3年生には卒業論文のテーマ設定、4年生には卒業論文の完成に向けて指導をする。講義科目では、経済史を学ぶ意義が理解できるような講義を行うとともに、図表や写真などを用いて視覚的にも分かりやすい授業になるように努める。		0.50	演習科目では、4年生の卒業論文の執筆、3年生のテーマ設定をサポートすることができた。講義科目では、図表や映像資料等を用いたり、授業の最初と最後に簡単な復習やまとめをしたりすることにより、当時の時代背景や経済史を学ぶ意義が理解できるような講義になるように努めた。社会経済史Ⅰでは、これまでの自分自身の研究を授業に反映し、現在進行中の研究内容にも言及した。また、2年次の指導教員として、交換留学等に関する質問・相談に対応した。	
研究	0.40	科研費の研究テーマに基づき、各都市の資料収集を進めるとともに、研究会発表、論文執筆に向けた準備を行う。		0.40	4月に行った研究会発表でのコメントを踏まえて、名古屋、東京、大阪での資料調査を行い、各都市に関する研究を進めるとともに、これから投稿する論文の準備・執筆を行った。	
社会 貢献	0.00			0.00		
管理 運営	0.10	専攻の広報委員としてオープンキャンパスなどの行事を円滑に運営する。		0.10	専攻の広報委員としてオープンキャンパスなどを円滑に運営するとともに、2年次の指導教員としてゼミ説明会や年次別懇談会などの運営も行った。	
	0.00			0.00		
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 		1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		西 圭介	所 属		法文学部 総合社会システム学科	職 名		講師
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.40	学会報告の準備をしながら、それを授業に生かす。			0.40	2016年5月に日本西洋史学会(慶應義塾大学)、2016年6月に社会経済史学会全国大会(北海道大学)において異なるテーマで学会報告を行った。これを通じて授業内容に深みを持たせることが出来た。		
研究	0.40	複数の学会報告を行う。その後、論文を作成する。			0.20	授業内容と関連させながら、『西洋史学』、『社会経済史学』に投稿する論文の準備を行っている。		
社会 貢献	0.00				0.20	2017年3月の終わりに宮古島において市民講座「自転車で拓く宮古のエコツーリング」を行う。自転車を通じてエコツーリングの意味を世界的にアピールし、宮古の島おこしにつなげる。		
管理 運営	0.20	2016年4月からの指導教員の業務を滞りなく行う。			0.20	2016年4月からの指導教員の業務を滞りなく行っている。		
	0.00				0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		樋口 一彦	所 属		法文学部 総合社会システム学科 法学専攻	職 名		教授
領域	業務ウエイト比(予定)	平成28年度 年度目標設定			業務ウエイト比(実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・学生支援	0.35	学部専門科目として、「基礎国際法」「応用国際法」「法学基礎演習」「法学演習」、共通教育科目として「憲法概論」、大学院科目として「国際平和法特論」「国際機構法特論」「国際法」を担当する。また、4年次指導教員として、学生の指導を行う。			0.35	学部専門科目として、「基礎国際法」「応用国際法」「法学基礎演習」「法学演習」、共通教育科目として「憲法概論」、大学院科目として「国際平和法特論」「国際機構法特論」「国際法」を担当した。また、4年次指導教員として、学生の指導を行った。		
研究	0.35	国際人道法研究を継続する。			0.35	国際人道法研究を継続した。		
社会貢献	0.00	教育、研究、および管理運営を行うことにより「社会貢献」を行う。従って、独自の「業務ウエイト」を置かない。			0.00	教育、研究、および管理運営を行うことにより「社会貢献」を行った。従って、独自の「業務ウエイト」を置かない。		
管理運営	0.30	全学委員会委員として、URGCC委員、学部・研究科委員として、大学院実務法学領域主任、図書・紀要委員、教育委員会委員、進路支援委員会委員、法学専攻内委員として、庶務委員を担当する。			0.30	全学委員会委員として、URGCC委員、学部・研究科委員として、大学院実務法学領域主任、図書・紀要委員、教育委員会委員、進路支援委員会委員、法学専攻内委員として、庶務委員を担当した。		
	0.00				0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。 			1.00	<ul style="list-style-type: none"> ・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。 		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		堀 勝彦	所 属		法文学部 総合社会システム学科	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果		
教育・ 学生 支援	0.60	講義では、今回は特にマクロ経済学の講義において講義内容・方法を見直し、板書・スライド・映像資料を有効に活用し、講義内容と現実社会との関わりがより実感を持てるよう工夫を行う。またWebclassを効果的に利用するよう工夫する。ゼミでは、理論と現実の両面から経済を理解できるよう努めるとともに、卒業後の進路に向けての活動の支援にも努める。また2年次指導教員として引き続きから卒業後の自分を意識できるような情報発信を行いたい。			0.65	講義やゼミでは、板書での補足も行いつつ、スライドや映像資料を活用して現実社会との関わり実感を持てるよう工夫を行い、Webclassを通じて自習用に提供する講義資料や演習問題の充実を図った。また、今回は、双方向授業に向けた試みとして、ディスカッションの機会を多く設けるように努めた。さらに2年次指導教員としては初年次から卒業後の自分を意識できるように、学習達成度シートの提出・返却、メーリングリストを作成・活用し、参加可能なセミナーやインターンシップなどについての情報発信を行った。		
研究	0.20	代表研究者となっている科研課題をはじめ研究分担者として参画する2つの科研課題や京都大学経済研究所における共同利用・共同研究拠点研究課題を中心に関係する研究会を開催・参加し、活発な意見交換を行いつつ各研究課題の成果につなげていく。			0.05	研究分担者として参画する、京都大学経済研究所における共同利用・共同研究拠点研究課題が採択された。また、科研課題を中心に琉球大学での小規模のセミナーや研究分担者との打ち合わせを行った。しかし今年度から新たに担当する事になった複数の講義の準備や学内管理運営そのほかに多くの時間を割いてしまい、研究課題を十分にすすめることができなかった。		
社会 貢献	0.10	マクロ経済学とゲーム理論の科目を市民公開授業として提供する。公開授業では映像資料も活用するなどして、受講する市民の方々にとっても意義ある講義となるよう努めたい。			0.20	今回、マクロ経済学とゲーム理論の科目を市民公開授業及び高校生向けの公開講義として提供した。その他、沖縄地区税関モニターとして会合への参加、学外の複数の英文査読誌のレフェリーを行った。		
管理 運営	0.10	昨年に引き続き図書委員として紀要の発行・運営に携わる予定である。また購読冊子や紀要の発行形態の見直しなど、限られた予算の下でも学術研究発表の環境を維持・向上できるよう工夫・提案を行いたい。			0.10	図書委員として紀要の発行・運営に携わり、削減される予算の下で少しでも教育研究環境が維持できるよう、購読冊子の見直しに務めた。その他、経済学検定試験実施にかかる取りまとめ、2年次指導教員としての来年度ゼミ希望の取りまとめ、世話人として、一橋大学から教員の招聘をするなどを通じて学生の就学環境の整備・提供に携わった。		
	0.00				0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成29年5月以降に学内外へ公表されます。

平成28年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		瀬口 浩一		所 属		法文学部 総合社会システム学科		職 名		教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成28年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成28年度 年度末自己点検結果				
教育・ 学生 支援	0.40	教育では、ゼミ活動として「県外大学とのディベート大会」「学内合同ゼミ」「学内外プロジェクトへの学生の参画」といった共同研究や、「卒業論文」での個人研究を通じて、「広い視野から考える力」「分析力」「忍耐力」「協調性」が身につくよう指導にあたる。大学・大学院の講義でも、「広く柔軟に考える大切さ」を伝え、「視野の広さと考える力」が向上するよう指導する。学生支援では、就職活動支援の知識や経験を活かし、就職活動開始の前からインターンシップなどを活用しつつ、支援・指導を行う。全国的に通用する人材育成を日頃のゼミ教育でも意識しており、就職活動期間を通じて、進路の相談、履歴書やエントリーシートの添削、面接指導など、全般的な指導を				0.35	ゼミ活動(3年生20名、4年生18名)として、①9月と②10月に「県外大学とのディベート大会」(①北海道、②沖縄で開催)、2月に「学内合同ゼミ」(経済学専攻内ゼミと開催)、10月に「IR推進室の事業(経済波及効果の計測)プロジェクトで学生が分析に参画」(12月に学内報告、3月に学外報告を予定)、そして10月と1月に「卒業論文・中間及び最終報告会」を開催した。就職状況もほぼ全員決定し、企業採用ご担当者から左記のゼミ生の能力が評価されたことも確認できた。授業評価アンケート調査では、講義内容に関する関心も7割超(調査票No.15の設問を参考)と高めることができた。教育と就職活動支援をなど、左記の学生支援・指導に伴う成果を十分確認でき、目標が実現できたと考えている。				
研究	0.20	「公共部門の効率性に資する研究」を引き続き進めるとともに、法文学部や国際沖縄研究所の研究者と連携した研究プロジェクトにも参加し、島嶼地域の課題に関する研究に当たる。研究会などに出席しながら、新たな研究分野に取り組むことや、将来的に外部資金獲得を獲得することの下地を整えたい。				0.10	学外研究者と連携した「本学国際沖縄研究所 共同利用・共同研究」の2つの島嶼経済システム研究(研究区分)のプロジェクトと、学外研究者と連携した公共部門の効率性に関わる研究プロジェクトに参加、議論などを行った。また、学外組織からの受託研究1件を受けて、新たな研究を進めており、左記の目標を概ね実現できたと考えている。				
社会 貢献	0.20	財政や地域・都市経済の専門家として、行政や企業等における各種委員会委員や講演、報道機関からの取材対応などを通じて、研究成果を社会に還元できるように取り組む。地域への貢献活動として、市民への公開授業や高大連携授業も実施し、専門的な視点や知識が養われるよう取り組んでいく。				0.20	行政や企業等の委員会・講演等(10程度)、国内・県内外の報道機関からの取材対応(10回程度)など専門的な助言・発言の機会を通じて、研究や専門的知識を社会に還元する機会にも恵まれ、地域社会との接点を持たせたことで、積極的な社会貢献ができたと考えている。				
管理 運営	0.20	全学の各種委員会やワーキングの委員を担当する。学部の各種委員会委員も担当し、大学及び学部にとって重要な時期に貢献できるよう取り組みたい。専攻・領域では、専攻主任の業務を全うできるよう取り組むとともに、学部委員会と専攻との架け橋となれるよう意識したい。				0.35	全学では複数の委員会・ワーキング等(2程度)の委員を担当するとともに、IR推進室の事業(経済波及効果の計測)プロジェクトにも携わった(3月に学外報告を予定)。学部・専攻では経済学専攻課程主任を務めると同時に、学部改組の委員会にもメンバーとして出席し、入試業務等にも携わって、左記の目標を達成できたと考えている。				
	0.00					0.00					
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。				1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内外公表に同意しない。			